

(仮) 円山動物園ポスト基本構想 第三回検討部会 議事録

平成 30 年 2 月 7 日 (水) 14:00～17:00

札幌市円山動物園 動物プラザ

吉中氏 ポスト基本構想の検討部会、第 3 回会議を開催します。お手元には議事次第、資料、および第 2 回議事録があります。なお、今回は水落委員が欠席です。では議事に入ります。今日予定しております議事内容は、報告事項が 4 点あり、そのあと、前回のように意見交換ということになります。他に議事の提案はありますか。ないようでしたら、次第の順に従って議事を進めます。では、報告事項 4 点のうち 1 つ目のポスト基本構想策定に伴う取り組みの進捗についてご報告いただきたいと思います。この基本構想策定にあたっては、いろいろな人たちが、いろいろな取り組みをしつつ、まとめていくという構図があります。例えば職員プロジェクトは毎週 1 回、職員の方々が熱心な議論をしております。また、来場者へのアンケート調査も進めていくということでした。これらの進捗状況、取り組みの進捗状況について、まず、ご報告をいただきます。

事務局 (神課長) 私の方からは、ポスト基本構想策定に伴う取り組みの進捗ということで説明をさせていただきます。資料 1 をご覧ください。最初に職員プロジェクトですが、動物園の若手職員 11 名で構成されておりますが、10 月から毎週木曜日に開催しております。これまで 15 回開催しております。それから、来園者へのアンケート調査については、昨年 12 月 24 日から今月の 1 月 22 日まで、土日と平日 10 日間を選定しまして、毎回一定数の来園者に対しましてアンケート調査をしております。回答数は 425 人となっております。冬期間は平日であれば一日 300 人、土日であれば 1,000 人ちょっと来られますが、こういった方々を対象にアンケート調査を実施しました。次に、市民意識調査ですが、こちらは札幌市が毎年実施する調査になります。担当部局が市政等に係る調査をしておりますが、今回、動物園に関する質問を設けることになりました。住民台帳から無作為に抽出した 18 歳以上の市民 5,000 人を対象に調査票を郵送しております。返信数は約 2,600 通ということで、現在、集計・分析中です。それから、

ワークショップですが、2回、子ども向けと大人向けを実施しました。子どもワークショップは昨年12月3日に実施しております。16名の参加がありまして、午前中に動物園のバックヤード等を見学していただき、午後からは、実際見学をしてみて感じたこととか、どんな動物園であつたらよいか、そういったことを子どもたちに議論していただき、そのなかに動物園職員も入って、いろいろな意見を交換させていただきました。次に、大人を対象にしたワークショップですが、2月4日に実施しました。こちらにつきましては、住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の市民2,000人に、ワークショップの参加を募る調査票を郵送しました。このうち、参加の意向を示された方が100名あり、ここから選考をして、22名の市民の方々に集まっていただき実施しました。当日は、園内のバックグラウンド等、普段見られないところを見ていただきまして、その後、動物園の役割などについて意見交換をさせていただきました。次はシンポジウムということになりますが、北海道の動物園の未来を語ろうという仮の名称で3月11日に開催を予定しています。以上がこれまでの検討状況になります。なお、先ほどの来園者アンケート、ワークショップに関する報告につきましては、次回以降の検討部会等でご報告する予定です。

吉中氏 ありがとうございます。資料1に基づいてご説明いただきましたが、アンケート等の集計結果など中身については、これからということですね。

事務局 はい、これから集計をします。

(神課長)
吉中氏 何かご質問等ございますか。

福井氏 この仮称ポスト基本構想の策定に向けて、説明にあつたようないろいろなプロジェクトが動き、それぞれ違う立場から、「これから円山動物園がどうあるべきか」、「動物園を取り巻く環境や野生動物に対する責任をどう果たすべきか」のような議論をしてとりまとめていくわけだと思います。そこでは、職員プロジェクトは現在15回実施と、とても密に議論がされており、ウェイト、エネルギーのかけ方でいうと、非常に大きいものだと思います。そこでの議論に沿って、今日の資料にある基本構想の鋳型みたいなものが出てきていると思うのですが、そこに、この検討部会の議論をはじめ、来園者アンケート・市民の意識調査・ワークショップなどそれぞれから出てきた意見が、どのように融合されているのか、また取りまとめられて行くのか？ それぞれが相互に作用し合っ

たのが形として見えるのかどうか？ 既に反映されて行っているのか？ また、職員プロジェクトに、これまでの2回の検討部会の意見や議事録がどのように共有されているのか？ さらに、それぞれの考えをどういうふうに合意という形にしていくのか？ そのプロセスはどのように考えられておられるのか？

吉中氏 ありがとうございます。今後どういうふうにまとめていくとか、説明をお願いします。

事務局
(神課長) 実際いろいろな方々、特にプロジェクトもそうですし、こちらの検討部会での意見をまとめたものを今回の文案に入れ込んでいます。また、アンケートで出てきた意見を入れ込む作業がこれからありますし、ワークショップ、シンポジウム等の意見も採り上げていければと思っています。ベースを検討部会とプロジェクトの議論として、そこにいろいろなことを入れ込むという作業があります。おおよそ、この作業を今年度3月末までには済ませたいと思っています。その後、案ができたあと、来年度に実際パブリックコメントを行い、最終的にとりまとめとなります。さらに、3月末か4月ぐらいには市民動物園会議を開く予定ですので、そこで確認いただくこととなります。そこでまたご意見をいただき、可能な限り、盛り込めるものは盛り込んでいきたいと思っております。

吉中氏 ありがとうございます。この検討部会が、今日を入れてあと3回で、次が2月23日になります。それから、5回目が3月12日ということですが、この基本構想案に、さらに来園者アンケート・市民意識調査・ワークショップ等の結果が盛り込まれて、さらに練られていくこととなりますが、われわれがそれを見られるタイミングは、どのぐらいになるのでしょうか。検討部会はあと2回しかないのですが。

事務局
(神課長) 5回目の検討部会には可能な限り盛り込んだ形でお示しますが、もしそこで間に合わなかったものについては、その後、各委員さんとのやり取りのなかで、継続的に対応できればと思っています。

吉中氏 わかりました。

事務局
(神課長) ただし、市が実施した市民意識調査アンケートは、結果が出るのが来年度と見込まれます。

来園者の方々に実施したアンケートは、実際に動物園に来て、体験して、動物園を見ていろいろな評価をしていただけるということが調査の特徴ですが、市

が実施したアンケートは、無作為に送っているので、普段動物園に来てない方の意見も採ることができます。そのため、普段来ている人と、そうじゃない人の比較分析をして、その結果を文案に盛り込むことができるのではないかと考えています。よって皆さま方への確認というのも、そのあとになってくるかと思えます。

吉中氏 わかりました。

佐藤氏 意見というより、感想なのですが、アンケートなどでどんなことがいわれているのかということに気をつけつつ、ここで話をしています。でも、これは自分勝手な意見で、みんなの意見と違うかもしれない。というようなことを(アンケートの内容が分からない中で)考えつつ話をするのは、ちょっと落ち着かないなっという気持ちがあります。

吉中氏 そうですね。

佐藤氏 市民意識調査については、園独自のものではないので、とりまとめに時間がかかるのはわかるが、来園者アンケートの結果は見たいと思います。また、ワークショップのまとめをどのような形でされるのか。そのまとめは、いつ、見せていただけるのか。気になりました。

事務局 (神課長) ワークショップの内容と来園者のアンケートの結果は、次回の検討部会のなかでご報告できると思います。

吉中氏 ワークショップの結果は、どのようにまとめて共有することになりますか。

事務局 (神課長) ワークショップで出た意見について次回の検討部会で報告します。

吉中氏 できるだけ早くいただけると、われわれも少し考える時間ができます。ですから、細かい分析というよりも生データでもいいです。

事務局 (神課長) はい。

吉中氏 なお、本日の資料の中に「ホッキョクグマの今とこれから」というシンポジウムのちらしがありますが、興味深いテーマです。これには酪農学園大学も参加させてもらっていて、ありがとうございます。このシンポジウムでは、円山動物園がホッキョクグマの保護対策とか、カナダのマニトバ州とどうやっていくかという観点からの議論が予定されていますか。今回の議論とは別物と違っていいのでしょうか。

事務局 (加藤園長) 講演でお話することはないですが、パネラーとして私も参加しますので、園の

取り組みとか、この先どうしたいのかということはお話したいと思っています。

吉中氏 マニトバのように動物園以外の生息地での保護に、動物園はどう関与していくかということの1つのいい事例になると思います。

事務局 (加藤園長) 今回お呼びするお三方は、11月にカナダへ伺いましたときにお話しをしてきている方なので、すでにわれわれの今までの取り組み、今後どうしていきたいかについて話して来ていますので、そういうことを踏まえながらパネルディスカッションで話してきたいと思っています。

吉中氏 わかりました。ぜひこのシンポジウムの成果も、基本構想のほうにインプットしていただけるといいなと思いました。

あと、よろしいでしょうか。では、次は報告事項の2つ目のポスト基本構想の名称です。加えて、キャッチフレーズ、理念の候補ということについて、説明願います。

事務局 (神課長) それでは、資料2をご覧ください。ポスト基本構想に替わる名称案ということです。検討部会では、現行の基本構想に替わるものとして、単に今の基本構想を更新するものではないということで、ポスト基本構想として議論を進めてきました。ポスト基本構想では、市民に動物園についてわかりやすく説明でき、かつ、ハード的な計画を示すというよりは、円山動物園はなんのために何を目指して、どういうことをしたいのか、といったことをまとめたたいと考え、作成したいということです。そこで、今回、円山動物園基本構想に替わる名称ということで「円山動物園経営方針」を提案します。そして、タイトルを「円山動物園の進む道」とし、さらに副題として、これからの円山動物園というものがついていますが、こういった今後20年後、30年後、円山動物園がどのように進んでいくのかということを示すものとして、このタイトルを考えました。それからキャッチフレーズになりますけれども、こちらについては、現行の基本構想のなかでは「人と動物と環境の絆をつくる動物園」というキャッチフレーズを使っております。今回の基本方針の策定と併せて、円山動物園でキャッチフレーズを考えたいと思っております。円山動物園の理念的なものがキャッチフレーズに表現できればと考えております。現在、円山動物園、動物園を表すロゴとかシンボルマーク、そういったものがありませんので、今後、ロゴを作成した場合に、セットとなってキャッチフレーズと一緒に使われていきます。

今回の経営方針にそういったロゴやキャッチフレーズがついたり、動物園がいろいろな広報媒体なり、ホームページで外に出ていくときに、ロゴとこのキャッチフレーズを一緒に出せればと考えております。本日、候補としていくつか紹介させていただいておりますが、こちらについては、職員プロジェクトから出てきたたくさん案から選んだものです。これらの案から最終的に選ぶということではなくて、一旦こういう案が出ておりますということできょうご紹介をさせていただきます。キャッチフレーズについては今後、園内でさらに検討を進めたいと思っております。因みに、旭山動物園は、「伝えるのは命」というキャッチフレーズを使っています。私たちも、短くて端的にわかる、いいキャッチフレーズを選んでいきたいと思っております。

資料3にポスト基本構想の文案をまとめました。これは、この検討部会で頂戴した意見、そして職員プロジェクトの検討を踏まえて、文案のたたき台ということでお示ししております。簡単に説明しますが、最初の1、設置目的になりますけれども、こちらにつきましては、円山動物園がどういう目的で設置がされ、運営されていくのか、というのを冒頭で説明します。次に2の実施事業になりますけれども、円山動物園がどのような事業、事業を行っているのかを端的に示すもので、たとえば指定管理制度で運営されている上野動物園では、公益目的事業ということで動物の飼育・展示、それから、野生生物の保全・環境普及といったこういった事業が明示されております。円山動物園では、飼育、飼育や展示以外にもいろいろな事業に取り組んでおりますので、こういったところで、こういったことやっています、ということをも市民にしっかり示していきたいということでここに整理しています。次、3つ目の理念になりますけれど、こちらについては、キャッチコピーにもつながるものですが、円山動物園が実施する事業をどのような理念を持って行っているのか。基本的な考え方をまとめたものをここにおきたいと思っております。次の4、円山動物園の役割になりますけれど、円山動物園の北海道のなかでの位置づけ。さらには日本、世界での位置づけを示しながら、円山動物園の役割を明確にしていきたいと考えております。次、5の円山動物園が目指す動物園になりますけれど、円山動物園は多額の市税が投入されている施設ですので、市民に愛され、誇りを持ってもらえるようなそういった動物園であり続けたいと考え、また、動物についても幸せであ

る施設でありたい、そういった視点をここに入れ込みたいと考えております。次、6 は理念や先ほどありました動物園の目指すところ、こういったことを踏まえて、今後どのような動物園運営をしていくのかということについて、具体的な方向性をこの項目で説明したいと考えております。前回の検討部会で、動物の福祉を前提として、保全なり教育、こういったものを柱にして動物園運営をしていきたいという説明をさせていただきましたが、この項目では、保全、それから教育・レクリエーション・動物福祉・連携、こういったものについて詳しく触れていきたいと考えております。7 以降につきましては、まだ整理ができておりませんが、7 では、先ほど6で動物園の方向性を示させていただきましたが、そういった方向性に従って動物園の運営を進める上で円山動物園が、そして、職員がどうあるべきか。それから、市民、企業・関係団体とどのように関わっていくのかということを示していきたいと思っています。8 につきましては、飼育・繁殖動物のコレクションプランで、今後 10 年程度を見据えて、どういった動物を飼育・繁殖していくのか、というコレクションのプランをここで載せていきます。9 につきましては、コンプライアンスということで、公務員として当然、法令を遵守することになりますが、お客さまから信頼される職員であるために具体的な取り組みをここで触れていきたいと考えております。最後の 10、その他になりますけれども、ここにおきましては、これまでに動物園条例の話が何度かされておりましたが、動物園条例につきましてはたとえば、日本の法的位置づけについて等に触れながら、ここで説明するのかということも考えています。ただし、条例に付きましては先ほどの 7 に書き込む方がいいのか、まだ悩んではおりますが、7 か、この 10 のところで条例につきましては触れていきたいと考えております。

吉中氏 報告事項の 2 から 4 までまとめ説明いただきました。中身については、このあとの意見交換のところですが、キャッチフレーズ、名称案、それから、この経営方針の骨子、叩き台ですか、それぞれの説明について、これらの位置づけ、あるいは、用語でわからないところがあったらいま質問いただき、それを理解した上でこのあとの意見交換に入っていきたいと思っております。何かお聞きになりたいことはありませんか。

キャッチフレーズの候補は、職員プロジェクトのほうで上がってきたなかから

例として挙げられという説明でしたが。

事務局
(神課長)

そうです。たくさん出たなかで、メンバーが投票して選んだものです。このまま使えるかどうか、一部だけをピックアップするのとか等の議論はこれからです。有力な候補ではあります。

福津氏

コピーなどはやはりプロの方にやってもらって、その中からみんなで選ぶとかがいいのでは。イメージはたいせつなもので、これでまた、キャラクターもビジュアルも決まってくる。確かにこういう話出たなと振り返りつつ、ここだけはプロの手をお借りしたほうがいいのではないかと思います。

事務局
(加藤園長)

代理店のクリエイター等ですか。

福津氏

一般からでもいいかもしれませんが、コピーライターに頼んだほうがほんとはいいと思います。直接、今まで円山動物園に関わった人とか、こういうことに興味がありそうな方たちに頼むとか。極端なことをいえば公募でもいいかもしれないです。この会議のなかで、みんなで揉んだ中から出てきた言葉を拾ってコピーつくるのは難しいのではないかと思います。

福井氏

私もそう思います。直感的に伝わるキャッチフレーズは、プロの方が考えるのが上手い。

吉中氏

今回出された経営方針が、これからさらに肉づけ、整理されて、固まってくるなかで、どのような内容を一番の売りにするのが、徐々に見えてくると思います。そういうときに、キャッチーなフレーズを考えることになると思う。今の福津委員の意見に賛同しますし、率直にいうと今回の案はキャッチーなものではないと思う。こういうことを目指すという中身は正しいんですけど、それをこれからの、宣伝や売りにしていくのであれば、もうちょっと考え、こういう能力に長けたクリエイティブな方に考えてもらったほうがいいのかもしいないと思います。

佐藤氏

逆に、少しださくてもいいのかなとも思う。カッコいい言葉が問題じゃなくて、とにかくいろいろな人が必死になって考えて出てきた言葉がこれだったら、たぶん伝わるものはあるのではないかんじゃないかと思う。こういう経過を知らない人が、ざっくり話を聞いて出してくれたカッコいいフレーズと、みんなのなかで、もうこれ以上ないけど、これが自分たちの言いたいことなんだよって、出てきた言葉と、どっちが大事かなと思ったら、カッコいいことも大切だけれ

ども、今さら誰かを頼むよりは、なんとかなかから絞り出せないかという気がします。

吉中氏 わかりました。

佐藤氏 いろいろな考え方があって、これからまた変わっていくとは思いますが。

福津氏 伝わればいいですね。要はうまく一言で伝わるものであればいい。

佐藤氏 今までののはちょっと長いですね。「人と動物と環境のきずなをつくる動物園」っていうのは、ちょっと長いですね。

吉中氏 難しいですね、なかなかね。理念とか、まさに目指す動物園像みたいなのが、経営方針のなかでもう少し見えてくると、プロジェクトのなかでもさらにもまれていくのかもしれないなと思います。今決めるものではないとは思いますが。

福井氏 この投票は、この職員プロジェクトのメンバー11人で行ったのですか？

事務局
(神課長) そうです。各メンバーから出してもらって、そのたくさんあるなかから1人、2案を選びました。

事務局 最初は50個ぐらいありましたね。

事務局
(加藤園長)
(神課長) 50個以上ですね。100近くあったかと思っています。

今まで理念が長いフレーズだったのでどうしてもこれに引っ張られていて、長くてもいいとか。一方、企業がいろいろコピーを使っていますが、本当はそういう短いものでいいのではないかと。両方の迷いがあるなかで、両方の視点から今回は出てきてしまった。あらためて、動物園を表す端的なフレーズを選ぶということで、もう1回仕切り直しが必要かと思っています。

福井氏 ここに入れ込む言葉は、たぶんそんな多くもないですよ？単語としたら。

事務局
(加藤園長) ワンフレーズですね。

福井氏 やっぱり1つの単語がたぶんキーワードになる。そしてそれを動詞で形容するというような感じですね。そのキーワードが何かというのをたぶん選んでいく作業で、これ見ていくと、命という言葉が目立つなという感じですね？それをどうアウトプットするか。そしてそれを、たとえば園長とか、円山動物園を運営されている上層部の皆さんも同意して、これでいこうというキーワードにしたら遜色ないかなと思います。

事務局
(加藤園長) 最近よく企業が理念にロゴを必ず付けてきている。そういうイメージなんです。だからそれを必ず全員が名刺に入れたり、いろいろな書きもの、つくりものの

なかに必ずそれが入ってくるということで、円山動物園は何をしたいのかってことを伝えられるような、ワンフレーズがほしいのです。

吉中氏 となるとやはり方針の中身が詰まってからということになりますか。

事務局 (加藤園長) そうですね。

吉中氏 わかりました。

佐藤氏 「円山動物園」という言葉はつかうのですか。

事務局 (加藤園長) 円山動物園という文字が書いてある下につくという感じですね。

佐藤氏 そういう使い方なら、やっぱり短くないとだめですね。

福井氏 そうですね。

事務局 (加藤園長) 難しい。だから、これをせいぜいツーセンテンスぐらいのワンフレーズで表したい。

福津氏 このなかで、きょう投票とかしなくていいですか。

事務局 (加藤園長) 投票するというのではなくて、もう少し揉んでもらいたい。

吉中氏 これがいいというようなことも、このあとの意見交換で言ってもらえればいいと思います。

では、報告事項はここまでとして、このあとまた、事務局 EnVision の長谷川さんのほうで進行いただいて、主に理念、名称、それからこの資料 3 について意見交換をさせていただければと思います。よろしくお願ひします。

ENV では、進めさせていただきたいと思います。意見交換の 1 つ目の、アのほうがポスト基本構想に代わる名称と、それから理念、キャッチフレーズの候補ということで、引き続き資料 2 のほうの意見交換を先に進めさせていただきたいと思います。キャッチフレーズはもう少し中身の議論が進んでから、それを踏まえてというような感じの議論になりましたので、ここは順番を入れ替えて、本文のほうを検討するということがよろしいでしょうか。

では、1 番の名称案はいかがですか。円山動物園の進む道という、これについては皆さん、ご意見等ありますでしょうか。

福井氏 ここに、円山動物園経営方針、円山動物園の進む道、これからの円山動物園。円山動物園が 3 つ出てきているので、ちょっとくどいという印象を受けました。また、響きの問題で、経営方針っていうのは何か企業的な感じがします。疑問と意見です。

そしてこれを見たときに、進む道、これからの円山という意味はわかるのですが、同じような意味を含んでいるので、別に理念的なもの、ポリシー的なものを入れたほうがいいのかなどと思いました。これからの円山動物園、未来に何をしていくかということですが、その思いをここに載せておくのがいいと思いました。

ENV 今、福井さんからキャッチフレーズとの関係について、ご意見がありましたけど、先ほどから出ているキャッチフレーズについてはもう少し考えるとして、どう使うのか。たとえば冊子ができたときに、表紙のタイトルとしては今の暫定的な、円山動物園の進む道、これからの円山動物園、とかが来るかと思うのですが、キャッチフレーズもそこにロゴ的に入るようなイメージでしょうか。

事務局 (加藤園長) かもしれないです。今、お話いただいてちょっと思ったのが、たとえばサブタイトルにその理念みたいなのが入ってくるとか。経営方針、円山動物園の進む道、たとえば命とともに進むとか、そんなことなのかなと、今思いました。

ENV ちょっとメッセージ的な感じのものが、入るような感じですか。

事務局 (加藤園長) そういうふうに、今思いました。

吉中氏 この、「円山動物園の進む道」と、「これからの円山動物園」は同じようなこと言っていて、「円山動物園」がかぶっている。また、中身もちょっとくどいと思う。また、硬い名前のほうの経営方針っていうのは、私もいいアイデアが思いつかないですが、もうちょっと理念的なものをいままでこの会では議論してきたと思うので、たとえばで、円山動物園の基本理念とか、そういうほうがしっくりくるのかという気がします。

ENV 何かほかに候補というか、名称は事務局の方で出ていましたか。

事務局 (神課長) 運営方針というのがありました。

事務局 (加藤園長) 運営なのか経営なのかは、われわれも結構議論しました。そこで、経営じゃないのかと言ったのが、私です。

福井氏 なるほど。基本構想案のこのあとの1番に、「運営」が出てきますね。私もどういふ言葉がいいのか、考えてみましたが、やっぱり「運営方針」が思い浮かびましたが堅いなと思いました。それで「基本理念」とか、「ポリシー」などと考えたのですが、もう少しわかりやすいほうがいいかなと思いますね。「経営」というと、自分たちの円山動物園がどうなるか、ぐらいのイメージです。今回

の構想案はもっと広い、全部の動物園や野生動物、地球の全体の運命を背負うぐらいのプライドをここに表すような、スケールの大きい何かがいいと思う。

事務局
(神課長)

最初に円山動物園の進む道が決まりました。ただ、これは外からみるとなんだろうと思うのではないかとということで、何かを付け加えようということになり、経営方針や運営方針がでて、いい言葉がなかなか決まらなくて、最終的には今お示したものになりました。

福井氏

これを見ただけで、円山動物園はこういう方向性で行くんだ、という目指す方向がイメージできるような、見た目が入ってくるようなものいいと思います。

ENV

何かほかにありますか。これからの円山動物園という、「～・・・～」としたなかにあるサブタイトルのところは、少しキャッチフレーズ的な、キャッチコピーに近い感じのメッセージになるものに変えるとして、円山動物園が被らないようにするのは、どうかなと思います。経営方針という言葉はいったん保留させていただいて、メインタイトルの円山動物園の進む道というのはいかがでしょうか。これは大丈夫ですか。他と被らないように、意味が繰り返にならないような感じで、サブタイトルとともにつけるという感じでよろしいでしょうか。

佐藤氏

基本に戻っちゃいますが、これは誰に向かって出すのでしょうか。この前は基本構想でしたよね。それに替わる、これからの円山動物園をどんな動物園にしていきたいかということを示すのがそもそものターゲットですね。

事務局
(加藤園長)

決して内向なものではなく、外に向かって、市民であり、北海道の人でありを対象に考えています。場合によっては英訳をして、われわれはこういうことをしているのとお伝えできるものがほしい。最初にお話をさせていただいたことですが、たとえば、カナダのホッキョクグマの関係者のところに行くにあたって、円山動物園が何をしたいかを伝えるものが今はなくて困りました。端的に言えばこういう時に示せるものがほしいのです。われわれを応援してくれている皆さんに対して発信するものです。だから一番頭で、経営方針としたのは、円山動物園の経営方針というのなんなのですか、ということがわかるように表すものと思っただけのことです。タイトルという硬いものよりは、もう少し柔らかい表現がいいと思ったのです。

吉中氏

経営というのはいろいろな捉え方があって、経営には全部カバーできるという

広い意味もあると思います。いわゆる狭い意味の経営だけじゃなくて、外とどうつながっていくか、外で何をやるかということもあります。しかし、取る人によっては、狭く取らえてしまうことがあるので、ちょっとどうかという気がしました。私が先ほど思いつきで申し上げたのは、もう少し哲学的な意味を含んだ理念とか、基本理念でいいのではないかという感じがします。たぶん、これはこれから動物園が生き残っていくために、動物園がさらに発展していくために、動物園のあるべき姿はこうなのです、円山動物園はそのためこういうところを目指して行くということ、いろいろなところでこれから PR していくのに使っていく資料になるんじゃないかなという気がしたので、そういうことがなんらかの形で入れ込めればいいのではないかと思いました。

福津氏 円山動物園の基本理念と仮にしたら、円山動物園の進む道というのはほぼ同じ言葉ですね。だから基本理念としたら、このなかは円山動物園の進む道とかではない方がよく、もっと具体的なフレーズがここに入ったらいいと思う。円山動物園ロゴの下に入れられるもの。「守る」とか、「つながる未来」みたいな、かっこのなかのものが、みんなが考えているキャッチコピーみたいなものになる。そうすると下のキャッチコピーはどうしたらよいか、さっきから考えていました。私も、これは基本理念とか、基本構想でいいと思いながらいたのですが。そういうものにするならば、かっこのなかの「円山動物園の進む道」というのは、ちょっとくどいですし、同じことを言っているなと思いました。

ENV たとえば円山動物園基本理念のようなところで、進む道というニュアンスは入れてしまって、タイトル自体がキャッチフレーズになる。ただ、そこがここでいっているキャッチフレーズと重なってくるのは、それは使い方としては構わないのでしょうか。たとえばロゴマークをつくったときに、またどこかに載せるときには、そのキャッチフレーズも示されるのではないかと思います。この文書のタイトルとしても、キャッチフレーズの部分と同じようなところが今のかっこのなかに入ってくるような感じというのは、いかがですか？

事務局
(加藤園長) 基本理念で全体をくくるのは、ちょっと難しいかなって感じがします。理念じゃない部分もあるので。だから、もうちょっと大きなものがあって、そのなかに理念があって、方向性があるから、単純には基本方針でいいのではと思う。

ENV 基本方針ですね。

事務局 (加藤園長) 要するに、方針ということがわかればよくて、それに対してタイトルがあって、理念があつてとかということじゃないかなとは思いますが。

ENV では、ちょっと中身の塊といいますか、全体について、そちらについての意見もお伺いして行ってよろしいでしょうか。1番からといって細かく見るより、全体として基本理念なのか、方針といったような言葉なのかを、全体を見て考える。また、一番後ろの7番、8番あたりはまだ文章はこれからということですが、おそらく今、園長がおっしゃったのは、この7番とか、8番、コンプライアンスあたりに関係する内容が、理念だけではないということになるからだと思います。さて、全体の構成については、いかがですか。もう少しか確認しておきたいことありましたら、質問とか意見をお願いします。

福井氏 すみません、1番のところへもう1回戻りますが、今の事務局がおっしゃったように、確かに理念とそれに基づく言葉として、戦略的な、こうしていくぞっていう具体的なことも含み、その2つを反映する適切な言葉はわかりませんが、なんか必要なのだろうなと思います。じっくりくるものが、「ポリシー」なのか、「方針」なのか。確かに「理念」だけではなく、理念プラス何か。あと個人的な趣向だけでお話をさせていただきますと、「進む道」というのは、道がもう既にあつてそこを選んでいくというイメージを受けるので、そうじゃなくて既成の概念に囚われず、壊して、開拓して前にいくぞっていう意味で、掘っていくぐらいの道っていうんですかね、同じ道を使うのであれば。未来をつくる、目指すとか、なんかそういう前向きな、よりアグレッシブなものがいいんじゃないかなと思います。ただ単に見守って保護しますじゃなくて、自然再生して自分たちの理想とするものをつくり変えていきますくらいな、そういう言葉のほうがいいような気がしました。

ENV ほか、いかがでしょうか。

福津氏 こういうふうにありたい、という強い思いがあるんだということを伝えたいのであれば、ビジョンとかミッションとか、そっちのほうがじっくりくるかと思いました。それを日本語に変えてもいいですよ。

ENV ミッション、ビジョンですね。

福井氏 ミッションは日本語では使命ですね。

福津氏 使命か。

事務局
(加藤園長)
金子氏

金子先生、何かご意見ありますか。

ちょっと話してもいいですか。

福津氏

どうぞ。

金子氏

私は今、市民動物園会議の委員長をしまして、この検討部会で議論されたあとに、案が市民動物園会議のほうに上がってくるので、いずれ意見をいう立場にありますことから、少し意見を述べさせていただきたいと思います。今、皆さんがお話をされた通りの感覚を、僕も持っていました。「進む道」というのは、このなかに書かれていることがタイトルに入っていないとまずいと思う。たとえば、今日の文案について、さっと読むと前半が非常に個々に記載されている内容が小さくて、どんどん後ろ（案の後半部分）にいくに従ってスケールの大きな話が出てくるようなイメージをもちました。たとえばコンサベーションの話だとか、生物多様性とかの話が後ろの方に出てくる。前のほうにはそういう話題が全くなくて、前のほうを読んでいくと、どこの動物園でも出てくるような内容ですし、50年前の円山動物園の計画でも通るかなというような内容になってしまっている。今はまだ、進む道っていうのは、どっちのほうに進むのか全くわからないような常態。そのような状況の中で中味を読んでくださいということなのだから、まずぱっと見たときに、たとえば世界の生物多様性を守る話が出てくるとかでないといけない。たとえばですけど、いま日ハムがやっているのは野球場をつくるんじゃなくて、ボールパークをつくりましょうっていうこと。野球場を中心にして、そこをみんな公園化しますよとやっていますよね。今ズーパークっていう言葉もあります。だから円山動物園を中心として、この円山には原始林があったり、近くには商店街とかあり、非常に特徴的な地域だと思うのです。こういったことは、この文案を読んでいくとなかに書いてあります。だけど前段にあるタイトルには全くないし、キャッチフレーズにもないし、実施事業のなかにも全くそういうことが書かれない。だから、ズーパークでもいいですし、円山フィールドミュージアムでもいいし、この地域全体を公園化していくというようなこと、まずそういう大きな構想を示すべきだと思います。そこには、世界のズーパークを目指してとか、そういうようなことが頭にくるべき。大きな構想、目標をあげた上で、個々の施策とか政策を書いてくるような構成になっていないといけない。これをずっと読んでいくと、非常

に抽象的なことから始まって、なかに入るとすごくいいことが書いてあるんですけども、それを含んだような言葉を最初に置いて、そこから、ぐっと中に入り込んでいくような、全体の形になってないといけないんじゃないかと思う。加えて、たとえば2番の実施事業とか、これ読むと、全くオリジナリティーとか円山の特徴とか、あるいは何を指しているのかが全くない。さらに、そのあとに理念が来て、順番が逆になっているという気がしますし、この2番の位置づけ自体も、十分でないし、動物園ということにあまりにもこだわり過ぎるのではないかと思います。さっき言ったズーパークというか、公園構想っていうか、そういうかなり広いなかで考えるべきです。だから動物園の計画というよりも円山の全体、円山動物園を中心とした全体的な構想であるべきじゃないかと思います。

ENV ありがとうございます。今、金子さんおっしゃったのは、特に1番、2番あたりに、もう少し理念的なというか、大きなところを持ってきた方がいいということですか。

金子氏 われわれの目指す方向っていうのを、きちっと前に書くべきです。

ENV さらにその上にキャッチフレーズとか、タイトルみたいなものあり、これらがそれを反映したようなところがあったほうがいいという感じですね。

金子氏 つまり、進む道っていうのが、いわゆるスタート地点から見たような感じなんです。そうじゃなくて、今回のものにはゴールをちゃんと書くべきということです。目指すものを最初に書く。福井さんの言われているのも、そういうことなんじゃないかな。皆さんが言っているのも、そういうことかなというふうに聞いていました。

あとは経営方針についてですが、園長が言われたように、確かにこれは経営方針なんだけれども、経営方針は経営者の方針というふうな感じがして、市民が外に置かれちゃっているようなイメージがあるのですね。市民は経営者ではないと考えると、ちょっと動物園の内部の資料かなっていうようなイメージになる。福井さんが言われていることも同じなんです。硬いっていうことと同時に、誰のもの、誰の構想なんだっていったときに、市民が入ってるっていうようなイメージを出すためには、経営という言葉はどうなのかという気はします。

吉中氏 まず全体の構成をみると、行ったり来たりしてという印象があります。たとえ

ば5番で円山動物園が目指す動物園、があります。ここにどういうことを書くかは、まだこれから議論が必要だと思いますが、われわれが目指す将来の動物園像というのはこんなイメージです、というようなものが最初のほうにあってもいいという気がします。そのあとに、まだぼわっとした夢のようなイメージの動物園ですが、それを目指すに当たって、具体的にはこういう理念でやっていかないといけないとか、そういう構成にしていったほうがいいんじゃないかという気がします。6番の9の保全とか教育のところでも、まさにビジョン的なものと、具体的なものと混在しているので、それをうまく整理して、先ほどのビジョンとかミッションとか、皆さんもおっしゃってましたけど、そういうことを目指してこんなことをやっていきたい、目指したい、ということが最初のほうにまとめられるといいのではないかと思います。

ENV 1番、2番の役割といいますか、こういう文書を挙げる意味合いについて、説明をお願いします。こういうところを、前のほうに置いて説明した方がいいということだったかと思いますが。

事務局
(加藤園長) どこかで示さないといけないとは思っていましたが。円山動物園というのはなんのために何をするところなんだっていうところは、しっかりと整理をしないといけないと思っています。だから、それが頭に来るのか、こういう表現になるのか、どこにあるのかということは、今日いろいろ議論があると思うのですが、それで再度検討したい。先ほど条例化の話がありましたが、実は札幌市で運営している円山動物園っていうのは、なんのためにどういったことをしますということは、どこにも書かれていないのです。例えば企業や指定管理でやっている動物園、水族館というのは、いわゆる会社の定款なり、自治体が指定管理に出すための仕様書とかに、こういうことをするのです、とかが書かれているわけなんです。でも、われわれにはそれがなくて。そこはどこかで整理をする必要はあると思います。

ENV それと、理念というか、ビジョンとかミッション的な、大きなところで変えていくという役割も、もちろん一方ではあるでしょうけど、企業の持つ定款のように、ある意味淡々と管理してる内容を示すところも必要ではないかということですね。

事務局
(加藤園長) 淡々と表現するのがいいのか、金子先生がおっしゃったような、もっと円山動

物園としてのオリジナリティーのあるものを実施事業のなかに、入れていくのか。

ENV 小菅さん、どうですか。

小菅氏 僕は理念というものを高く、最初に掲げておくべきだと思います。動物園がまだないときは、最初にはきちっとした理念をつくり、こういうものを目指すということを明確にしてから設置に取り掛かるのだと思います。そのなかにはこういう社会を目指すというのもあるし、われわれはこういう暮らしを目指すということもあるし。そういう理念があつてそのもとに円山動物園はこういう役割を担って、こういうふうにしてやっていきますと言って、それからこういうこともやっていきますよというような順番がいいんじゃないかと思います。最初にやっぱり理念というものを高く掲げることがやっぱり重要なんじゃないかなと思いました。

福津氏 市民もそう見るのではないのでしょうか。理念をはっきりわかりやすく示すと、来る人も来ない人も安心というか、動物園に対してはこういう知識がみんなちゃんあるようになると思います。

福井氏 基本構想をつくっていく過程で、市民の意見があつたり、職員の意見があつたり、また検討部会があります。この検討部会でも最初私たちのなかで意見交換したときには、これからの動物園は研究とか保全に関わっていく役割を強調していく、円山もそうなんだという議論があつた。また、一方で市民の動物園なんだから楽しい場所でなきゃだめだということもある。結構そのへんのところは、見方によっても違うし、でも理解すればそういう多様な役割を動物園は持っていて、動物園は楽しいところで人が集まるからそれをメリットと捉え、そこで動物のことを知ってもらったり、世界の動物のことについて考えてもらったりする。こうしてつながるので、構想案のなかでも円山動物園が目指す未来像というのは、直感的にわかるものがよく、それをパンフレットとかロゴだとかで露出し、そのたびごとに市民も、円山動物園はレクリエーションの上に、これから目指すもの、円山が目指していかなきゃいけない、担っていかなきゃいけない動物園像がわかるようにする。今はあんまりわかってもらえてないかもしれないけど、そのような多様な役割があるのだということを普及していくきっかけになる、チャンスとなると捉えることも必要なんじゃないかなと思います。

ます。

ENV なにか今の話の流れでありますか。特になければもう少し絞ってもよろしいでしょうか。今の段階で理念を言葉として書いているのは3番ということになります。3番が1、2、3、4と4つ、理念という項目のなかに挙げています。それから4番が、ここでは役割という言葉を使っていますが、ここは1番が札幌市における、2番が日本における、3番が世界における円山動物園となり、それぞれのスケールで役割が示され、位置づけ、立ち位置といった感じの内容かと思います。5番には目指す動物園ということで、今、吉中さんからありましたが、ここはビジョンといいますか、夢のような、どちらかという抽象的な表現もあるかとおもいますが、まとめてあります。これらの配置と内容等についてはいかがでしょうか。書き分け方とか、書く内容の絞り方など何か意見はありますか。

金子氏 やっぱりバランスが悪い。キャッチフレーズ、何を狙うのかってということが書かれているが、後ろのほうにコンサベーションとか生物多様性とか出てくるのに、ここにある理念とか実施事業のなかに全くそういうことが書かれてない。これは変じゃないかと思う。本当に世界の、あるいはアジアの中心となるような、生物多様性保全を推進する上で重要な動物園になるんだというのであれば、この実施事業や、理念、目指す動物園というところに書かれないといけないと思う。この5番とこの2番の内容についてスケールがすごく小さい。だから、これは本当に50年前の動物園のことを表しているような感じになっている。だからここは場所も悪いと思うのですが、そのへんをもっと全体のフレームから書き直す必要があります。

ENV 3番あたりも4つぐらいに分かれていますけど、このあたりももっと絞ったほうがいいのですね。

小菅氏 理念として伝えることは、1番しかない。生物多様性や、そのほかのこと、これをここで挙げるには小さすぎると思う。

金子氏 多様性を保全するとか、いわゆる国際協同でなんかやるとか、そういった、これからの目指す動物園の姿がここに書かれなくちゃいけないのに、ここには何も書かれていない。

ENV たとえば今の3番のなかに挙がってるかっこ1ですね。生物多様性、ここは一

番の大きな理念で触れておかないといけない。2、3、4あたりの内容はもう少しあとからでも構わないという感じですか。

金子氏 それは一番後ろのほうの話じゃないのかな。飼育動物の生活の質を高める工夫を常に探求しているのはこれ動物園の飼育の方の話であって、動物園の理念じゃない。仕事の話です。

ENV というような意見がありますがいかがでしょうか。

事務局 (加藤園長) もっと大きい話なんですね。理念ですね。大きな話をどんと載せてコンサベーションアンドエデュケーションみたいな話をどんと載せるということ。たしかに、この実施事業は役所の事務文書みたいですね。

福井氏 最初の名称とかキャッチとか読んでると、たぶんこの検討部会でもそうですが、生物多様性の保全とか環境保全というものを前面に押し出そうと話していて、みんなもこれは本当に動物園が目指していることですからごく大事なんだなというふうに、考えがそっちのほうにシフトしていると思うのです。一方でやっぱり市民、あるいは未来の子どもが大事で、たとえば子どもの未来や人を育てるとか、人の心を育むとか、そういう「人」側の部分がこの名称ではあまり感じられない。理念も1番ぐらいが生物多様性ですが、さらに人を育てる、子どもたちに何かを残すみたいな、本当に今大人がやらなければならないこと、人、動物を含む地球環境保全していくというのが一番なんじゃないかなと思います。ですから、そういうものを入れてほしいと考えます。

吉中氏 全体の大きな整理があるんじゃないかなという気がするんですよね。3ページ目の図でいくと、動物園の使命として保全と教育が、2つが書かれてあって6番の1行目には、円山動物園ではまず保全と教育の2つを運営の柱として位置づけますと書いてあります。けれども、それがここにあるべきなのか。もっと前に2つの柱をだし、生物多様性保全、さらに生物多様性についての教育、環境教育する場として動物園はあり、それが目指す道だとすれば、前後の関係の整理が必要かと思います。1番の設置目的で書かれてあることと、3番の理念で書かれてあるところも、微妙に書き分けてはあるのだけど、実は何か同じようなことを言っていたりするので、もう少しわかりやすくすべきだと思う。全く同じようなことが4番の役割のところでもいえて、4番の役割は、スケールの、空間的な役割みたいなことを書かれていますが、中身をよくよく見ると、

1番3番あるいは保全と教育を2つの柱とするっていうようなところと、うまく整理する必要があります。今はいろいろなところに散らばっていて、ここの交通整理みたいなのをするともう少しわかりやすくなるんじゃないかと思えます。

ENV この4番のところは、たとえばスケールといいますかね、最初は地域への貢献みたいな話がかかれていて、2番は日本でのなか、あるいは北海道としての位置づけという感じで、そのスケールを変えながらの書き方なので内容としてはここもどれも重なるようなことが出てきてしまっている。このなかに保全の話も出てくれば教育に関する話も出てきて、別の場所3番とか6番は、また項目ごとに書いているので、やっぱり保全に関してのところでは地域の保全もやりますし、世界的な希少動物の保全もやりますということで、内容は同じです。同じですがくくり方の整理が必要ということですね。地域単位のくくり方で書くときにはいろいろな項目が出てくるし、項目ごとに分かれて書いたときにはいろいろな地域対象のことがまた出てくるしということで、このあたりも書き分けが難しいなと感じます。このあたりの各目的といいますか、こういう項目で挙げている意図といいますか、そういうのはいかがですか。4番でのこういう位置づけを書く意義について。

福津氏 あまりつつかれないように保険としていっぱい書いているような文章じゃなくて、もっと削ぎ落とせるものはうんと削ぎ落としてシンプルにわかりやすくしたほうが、もっとわかりやすくなるという印象です。ちょっと乱暴な話で、たとえばですけど、さっき景観的なものもっていうのが出ましたけど、思い切ってそれと分けちゃうとか。理念は理念にして、景観的な文言は分けて。そして理念は、基本理念としたらわかりやすくシンプルに、さっきの大風呂敷的なわくわくするのも入れつつ、でも使命的なものもちゃんと入れつつ、文章的には少し削ぎ落とせるものは削ぎ落として、できるだけわかりやすくというふうなことが必要じゃないかなと思いました。

福井氏 一番最初に来る理念とか、目指す方向性のような大きなものは、よりシンプルなもの、そこだけ読んでも理解することができる、入口のようなものがよく、あとは時間あるとき読んでください、という構成がいいかなと思いますね。確かに福津さんおっしゃったように、つつかれないようにいろいろと、議論に出

てくるキーワードがたくさん入っていて、同じようなことをいろいろなセクションでいっているの、圧縮すれば極端な話、半分くらいに収まるかもしれないという印象を受けます。

金子氏 生物多様性の保全とか考えたときに、普通はたとえば大学とか、博物館というようなところと連携してやるわけです。けど実際にはこのなかにそういう連携の相手を書いてない。札幌市の場合は博物館構想を出していて、テーマがたぶん生物多様性になってくるんじゃないかと思うのですが、動物園の構想と博物館の構想と違ってというのは、接点があり、狙いはかなり関係してくると思う。これからの円山動物園は、フィールドミュージアムとして原始林もあるし動物園で生の多様性が見られるということで、博物館機能を動物園が持つべきだと思います。しかし、市で取り組んでいる博物館構想と動物園の生物多様性保全のプログラムっていうのが、うまくリンクしてないような気がする。さらには、大学との連携とか、もっと書かなくちゃいけない部分がいっぱいあるのに、それがなくて読んでてなんか残念な気持ちになります。

吉中氏 今おっしゃったこと、全くないわけじゃなくて、全体に埋もれちゃってるんですね。大学との連携っていうのは後ろから3ページぐらいのところさらっと書いてあって、さらに札幌市との連携みたいなものも書いてあることはある。教育機関、博物館等とのつながりを深めるということもさらっと書いてあって、ちょっとあまりにいっぱいあり過ぎて埋もれちゃってるというか、重みづけがされてない。これらはもしかしたら後ろのほうに書くんじゃないかと、もっと前のほうに持ってくるべきだとか、そういう整理がやっぱり必要ですね。

ENV この先がそういう整理になってくると思います。あと一方で職員の方々の話のなかでも、やっぱり動物の福祉であるとか飼い方の配慮みたいなものは話のなかにたくさん挙がってきているので、そこも大事だと考え書き出してみました。全体の文章量が増えてしまいました。ここがどうしても埋もれてきてしまうという感じになってきてしまうので、おっしゃるような部分はピックアップして前のほうに持ってくる。そこのバランス、どれを強調するかということで整理したいと思います。

小菅氏 理念のところでもう1つ。生物多様性とか地球環境の保全に貢献します、それはいい。でも、やっぱり動物園というのは人間社会のなかにある機関ですから、

これはわれわれが将来どういう社会を目指していくのか、そこを提案しますということもこの理念のなかに入れ込んで欲しい。先ほど金子先生がおっしゃったように、せっかく自然界があって大都市があって動物園があって、こんなところにある円山動物園だからこそ提案できる社会のあり様、札幌のあり様、地域のあり様というものを理念のなかにきちんと織り込んでくっていう必要があるんじゃないかと思います。

福井氏 金子先生がおっしゃった連携とか、最後のほうに書いてはありますね。

金子氏 バランスが悪い。読み進むにつれてどんどん話が大きくなっていく構成になっているから。

福井氏 公園施設も入ってますし、小学校、博物館、教育機関、市の公園設備とか入ってますね。

文章の並べ替えとウェイトの置き方、アピールの仕方について整理し直すという感じですよ。

佐藤氏 あと1つ細かいことなんですけども、3の円山動物園は「まもる、つたえる、はぐくむ、つながる」をモットーに書いてあるんですけど、この言葉どこから出てきていつ決まったのでしょうか。今までのキャッチコピーとかのなかにも出てきてなかったし、パンフレットにもなかったような気がするし、これはいつからどう決まっていたのですか。

ENV これは、もともとは職員プロジェクトのなかで保全の部分と教育の部分が出てきたところに、前回の検討部会の議論で、やっぱりつなぐというのが大事だろうということでしたので、それも加えてキャッチフレーズ的にして記載しました。

動物の福祉の部分はしっかり主張していかないと、というようなことを踏まえた形で4本立でいくという流れになりましたが、今の金子さんや福津さんのご意見もあるように、ここもまたちょっと考え、どこをピックアップして比重を置いていくかについて。検討が必要です。このあたりではたとえば動物の福祉的な部分は少しあとのほうにして、掲げるものとしてはやっぱり保全あたりを、生物多様性保全あたりを記載すべきでしょうか。

小菅氏 動物の福祉は理念じゃないと思うんですよ。理念というのはここへ行くんだという大きな旗印があって、だからそのために動物福祉は絶対必要だという順

番でこういう議論になってるわけだから、理念はもっと単純で大きく挙げるほうがいいんじゃないかと思います。

ENV 今出てきているなかでは生物多様性の保全、福津さんもおっしゃられたような子どもたちを育てるような感じのイメージでしょうか。

小菅氏 目指す社会をつくるためにはそういうふう子どもを育てていく、ということなので目指すべき社会のなかに全部含まれてると思うんです。福井さんが言っていたように。

ENV このあたりに絞るという感じでしょうか。

金子氏 これをつくる背景というか前提には、いろいろ事故や事件があったりしている。それを踏まえて個々の動物の福祉を前提としながら多様性の保全等を目指すという構成になっていないといけない。地球的なものだけを一生懸命目指しますよとか、多様性の保全をやりますよ、というようなことだけではなくて、この構想を見直すことに至った部分、マレーグマの話とかね、そういう部分が根っこにはあるわけで、そこはきちっとしながらこういうことをやっていきますというように、見えるようにする必要がある。

小菅氏 動物の福祉というのは、ここの動物を自然界から切り取って持ってきた、われわれとしての責任というか当たり前のことです。それは理念でもなんでもないので。人が空気を吸うように、動物園では動物の福祉に配慮するというのは当然のことなんです。きょうも道新に、アニマルウェルフェアの記事が大きく載っていたけれど、世の中そういう流れに今なっていて、当たり前になろうとしてきているのです。

ENV 説明をどこかには入れるけれども、後半のほうでもしっかり説明されていればいいという感じの位置づけでしょうか。

金子氏 そこはしっかりと押さえた上で、プログラムとか方針などを考えていかないとけない。

ENV 理念として最初のほうに挙げる項目ではないということですね。

金子氏 絵についてももう少しわかりやすく整理してほしい。この図の動物福祉とか、丸や四角で表しているものがあるけれども、これは何を意味しているのかよくわからない。そのあたり少しすっきり全体の位置づけがわかるようにしてほしい。動物福祉が下の方にベースとしてあって、上のほうに地球環境の保全とか生物

多様性の保全があつて、そのあいだに人、市民とか世界があるみたいなイメージの図が欲しい。

吉中氏 生物多様性の地球規模の戦略計画というのがあり、そこでは目標年度を 2050 年に設定し、ビジョンとして示されている。一言で言えば 2050 年に自然と共生する社会をつくり出すとしている。そのためには 2020 年までにこんなことをやりますと、二段構造になっています。自然と共生する社会をつくるために生物多様性、種を守らないといけません、生息地を守らないといけません、外来種対策をしないといけません、いろいろな項目に個別の具体的な目標があつて、さらにそれを実施するとなつている。それを実現するための、実施のためのメカニズムというか、実施のためにはこんな取り組みが必要ですよというのが、1 つのゴールとして示されている。そういう形の構成に戦略計画はなつている。こういう構造も参考になるかなと思います。動物の福祉とか、コンプライアンスの話とか、狭い意味での経営をどうするみたいな話は、理念、あるいはその理念の下に、目指す具体的な目標を実現するためのメカニズム、実施のために必要なことですよということに出てくる。そして、最終的には自然と共生する社会を円山動物園は目指すことに貢献します。では自然と共生する社会はなんですか、といわれたときに、そのために円山動物園では生物多様性が保全されてますとか、市民の人はみんな 1 人 1 人動物の重要性が理解できますとか、動物園が大好きになりますとか、そういう並び方にして整理することも考えてみてもいいかなと思ひ、参考までに紹介してみました。このカラーの図で書かれているところにもこういう整理をしてみると面白いかなと思う。

ENV 図の構造ですね。自然と共生する社会をつくり出すというのが一番大きな目標としてある。

吉中氏 それがいいかどうかは別ですけど、小菅先生もおっしゃったように生物多様性だけじゃなくて人間のライフスタイルというか人間社会がどうあるべきか、ということまで視野に入れるとなれば、そういう広いものでもいいのかなって、ちょっと思いついた次第です。

ENV 書き方の構成といいますか、理念が大きくあつたときに、いくらか個別の項目も挙げるという意味で、6 番あたりはかなりたくさん項目が出てるのでもう少し絞っていくことになります。この点、4 番のようなこういう項目は必要で

しょうか。これは個々のなかに入れ込めばいいのでは。内容としては被ってくる部分があると思うので、もう少し具体的に書くところで入れ込んでいけば、特に札幌市においてはこうとか、そういう書き方は必要ないでしょう。

福津氏 ないと思います。

ENV 特にいない。個々に散らす。

吉中氏 背景みたいな位置づけ、イントロといたらいいのか、そういう位置づけになっていくのかなと思います。円山動物園はこういう位置づけにあるんですよ、ということがまずあって、それだから理念はこれなんですという書き方。もしこれを残すとすればですが。

ENV ではこれは札幌のなかでこういうふうにやりますじゃなくて、札幌市における背景といますか、こういうところが求められているというような、少し一般的なことを説明しておくような感じになりますか。

福津氏 ほかのページを読んだときに、この内容が書かれてなくても伝わってくるんじゃないかなと思います。

ENV ほかのところにもそれぞれ地域の生態系を大事にしますとか、世界的な貢献をしますとか繰り返し出てはくるのですが、ここは特に札幌市のなかではというふうな視点に立って章立てされたところなのですが。

事務局
(加藤園長) きっとこれ、(1)の札幌での位置づけというよりは、北海道のなかで円山の位置づけということなんですね。だからちょっと毛色は違うんだけども保全とか教育とかってということよりは、動物園のなかでの位置づけみたいな書き方になった。保全や教育も視野にはあるけれども、北海道の動物園、水族館のなかで円山はどういう位置づけにあるかとか。日本のなかでどういう位置づけにあるのか、どういう役割をしなきゃいけないのかという整理が必要と考え、こういった記述となった。

ENV やっぱりまず理念を掲げてからその次の階層になり、目指す動物園等があったときに、札幌のみならず北海道、日本、ひいては世界となりますが、地球環境全体の保全を目指していくというのは、そこらへんに散りばめてあるので、具体的なのはその次の階層にしていんじゃないかということですね。

福井氏 それは4番の章立ては特にはなくていいのかと。

ENV 目的、理念、そして目指す方向性を書く中で、そこにこの札幌、北海道、日本、

地球規模でっていうのは入れ込んでいけると思います。その次にもう少し具体的なミッションを書いていけばいいんじゃないですか。あり方みたいなもの。

事務局
(加藤園長)

なので、世界における円山の役割というのを、つまりミッションをどこかに、一ちりばめて入れるかどうかは別として、入れておかないといけないと思う。なんで円山動物園にゾウを連れてくるの、とかいうことに対する答えが出てこないといけないので。なんで、オランウータンを飼育展示するの、とかの答えの根拠となる記述が欲しい。

ENV

たぶん地球規模の動物を展示することで知ってもらって現状、生息地の現状を知ってもらって、それを札幌市民のみならず日本国民としてしっかり知っていかねばならないんだ、という社会のつくられ方ですね。それは初めのほうに入れとくべきだと思いますね。どうでしょうか、このあたりの構成といたしますか、章立てといたしますかどうかでしょうか。

佐藤氏

理念がしっかりしてるから、ゾウを連れてくることも、オランウータンを連れてくることも、大きくいえば世界のなかで意味あることなんだ、ということを引きつり言いきっておきたいということですね。

事務局
(加藤園長)

そういうことです。

佐藤氏

となるとはやっぱり理念ですね。

ENV

それをどこに入れ込むかというか、どういう感じの入れ込み方をするのかということなんですが。

佐藤氏

なんで連れてくるかっていうと、このままほっといたらいなくなっちゃうかもしれないけど、円山動物園でがんばれば、増やせるかもしれないってことですよね。

事務局
(加藤園長)

そういうこともあるし、まあ、ゾウを守るということは森を守るということであって、森を守るということは、われわれ人間が生きている地域のことを守るということなんです。ということにつながっていくのですが。

佐藤氏

それを最初にきっぱり言わなきゃだめですね。

事務局
(加藤園長)

だから、理念は大きく掲げて、ということですね。

佐藤氏

理念の文章がまとまってきたら、この文章全体のタイトルとかキャッチコピーとかも、整理されてきそうな気がしますけどね。なんか順番逆でしたね。タイトルとかキャッチコピーじゃなくて、やっぱり理念が先。

事務局 (加藤園長) 高野さん、どうですか？個別じゃなくてもいい。全体についてなにかありますか。

高野氏 皆さんの話、最もだと思って聞いていました。やっぱり今おっしゃられたように、理念が最初に固まらないとすべてにおいて、タイトルにしても、決まらな
いと思いました。あとは、いろいろな方に説明するときに見せるっておっしゃ
っていたので、海外の人もしかり、小学生とか、まあ高校生とか中学生とかも
もしかしたら見るかもしれないってなったときに、やっぱりもうちょっとシン
プルなワードじゃないですけど、整理されていたほうがいいなとは思いました。

福井氏 今、高野委員おっしゃったように、誰でも理解できるっていう意味では、最初
のほうは極力シンプルな言葉を使っていく。あと、このイラストですね。先ほ
どご指摘があったと思うんですけど、やっぱり動物福祉に根差してその動物の
健康があって、だからこそ魅力的な動物を展示した上に初めて伝えるものが教
育として備わってくる。また、保全が活かされてきて、それを通して社会にど
う作用していくのかという説明が必要。そしてそれらが、札幌なり、北海道な
り、人々に対してどう作用するか、その方向性、矢印も形にしてここに出てこ
なきゃいけないのかなと思いました。それと、生息地の動物がどうあってほし
いかというのもここに入ってきたほうがわかるのかなと思いますね。今の文章
はやることだけですね。やった結果、何につながるかっていうのが見えないで
す。なんのためにこれがあるのかということも入れ込んだほうがいいと思いま
す。

ENV 5番あたりはいかがですか。ここの位置づけ、ここもどういうことをここに書
いて、どのあたりに入れ込むかということですけど。

吉中氏 この5番が何をねらっているのかよくわかりません。もしなんかこんなこと
を書くのであれば、これはもしかしたらこの経営方針で、この全体の本文とい
うよりも、コラムというか、PRのときのイメージ像といいますか、こういう
理念でこういうことでやっていくということをどこかで示せばいい。そうであ
ればいったい30年後、50年後に動物園はこうなっています、というふうにする
とか。円山原始林と一体となったこんな動物園ができ上がります、みたいな
そういうイメージが、目指すところとしてぼんやりとでも、しかし具体的に見
えるような資料というか、挿絵等がつくといいですね。

事務局
(加藤園長) 最後にはいりますかね。こういう理念があつてこういう活動をして最終的にはこんな動物園になりますという。

吉中氏 1枚の絵でいいと思うんですが、みんなが楽しそうに遊んでいるんだけど、それが世界にうまく役立ってます、みたいな。そういうのが、これから PR していく上で必要と思います。

ENV ここは言葉としてはほんとに抽象的というか、誇りに思ってもらってとか、愛されとか、幸せにとかという感じなので、確かにおっしゃるようにイラスト的なイメージ、視覚的なものかなと思います。こういう項目の必要性についていかがですか。

事務局
(加藤園長) 理念で言い尽くせるような感じですね。

福津氏 これ結果的に市民に言ってほしいなと思うようなことですよ。

ENV そうですね。

福津氏 つまり、円山動物園はこんな理念を持ってやっていて、来た人が楽しい、動物園があつて誇りだ、あんな幸せな動物も見た私たちもこんな街に住めて幸せ、と市民に思ってもらえばいいことで、動物園が言わなくてもいいんじゃないかなと思います。結果的に、市民にこういうふうにも思ってもらえるような理念を並べたらいいのかなって思います。

ENV ここは目指す感じのものとしてはこういう言い方はしなくてもいいんじゃないかなということですか。

福津氏 思いがあることが伝わればいい。

ENV 整理をさせていただきたいんですが、いろいろな意見が出たので。まず理念を大きくというのは皆さん共通の意見で、最初のほうに大きく出していく。また、4番あたりのくくり方もそれぞれの文章に入れ込んでいって、書いてる内容としては必要などがあるかと思うんですけど、入れ込んでいくとすれば、今の3番あたりをもう少し絞って大きな理念として出せばいいのでしょうか。あとは吉中さんにご指摘いただいたような、自然と共生する社会をつくります、みたいなところを大きく出し、あとはそれぞれの項目で、6番あたりを整理しながら、このイラストをもうちょっとわかりやすくしながら個々の項目に入れ込んでいくぐらいの体裁でいけるような気がするんですが、そういうことになりますか。

1番とか2番あたりは後半のほうに持っていき、特に4番5番あたりをわざわざこういうふうにくくらなくても、6番のあたりでうまくイラストを使うなどしてわかりやすくした上で、それぞれの事柄について書くべきことはしっかり書いていくという構成にしていればいいのかとおもいましたが、どうでしょうか。

福津氏 それぐらいの編集作業があつていいと思う。

事務局
(加藤園長) まとめますと、1番と3番と4番と6番のリードをうまいことまとめて理念に落とし込んでいきつつ、6番のこの小項目と2番を合体するような感じの整理が必要になる。

ENV そうすると今日はまだ文章は出てきていませんが、7、8、9あたりを後半で説明して、全体の文章構成ができあがるという感じですか。

事務局
(加藤園長) 6番の小項目以下は分けられるんじゃないですかね。どういう項目がいいかわかんないけど、ちっちゃいのおっきいのあるから、うまいことすみ分けができる。

ENV 7番あたりはより具体的にという感じでしょうか。実現するために必要なことということで。

事務局
(加藤園長) 7番はそうですね。

福津氏 6番ってこんなに盛り込まなきゃいけないですか。

ENV 6番ですね、どちらかというとな漏れがないように出てきたものをまとめた感じなので、どんどん削っていくという感じのイメージです。職員プロジェクトとかで出てきたいろいろな意見をむしろ、まずは漏れがないような感じで拾い出して今回はまとめました。当然被っている表現も、重複もあるので、まずはそこを削っていきます。職員の方々にもまた見ていただくことになると思うんですけど、今はどっちかというとな文書表現よりは、これはどうしても書いておいてほしいとかいうようなことを精査していただくという段階かと理解しています。

福井氏 たぶん条例、定款を意識したのがこの設置目的とか実施事業ですね。典型的な行政の書き方ですね。こういう書き方が行政内部での協議では必要になるんですね。でないと受け入れられないですね。

事務局
(加藤園長)
福井氏 そうなったときには。
実施事業みたいなことも必要になりますね。

ENV そこあたりはいかがですか。さっき福津さんからは、行政的に必要な部分は分けるという話がありましたけど、やっぱり必要であれば後半のほうにこういうスタイルのパートは必要でしょうかね。

福井氏 定款のような書き方が必要であればそう書ければいいかもしれませんし、ある団体があればこの実施事業については、こういう団体ですよということは説明しないとイケない。金子先生がおっしゃっていましたが、大きなスケール、例えば生物多様性の保全とかそういった目標は、ありきたりの動物園ではない、円山動物園はこれからこれを目指すんだ、新しいものをつくっていくんだっていうものですから、項目として大事なものを上に置いていけばいいんじゃないかなと思いますね。

ENV そのあたりいかがですか。やっぱり利用方法として条例を想定したり、定款のようなものをイメージしたりすると、スタイルとしてこういう書き方、表現も必要かということなんですが。それで後ろに、そういうものを残したほうがいいんでしょうか。

事務局
(加藤園長) こういう通り一辺倒の表現じゃない使い方をすれば、これ6になるかなんとかは別として、今後の動物園運営の方向性も小項目のなかに織り込んでいくことはできますね。方向性として、われわれはこういうことを次のような形で、こういうことをしていきます、とかいうことで整理できるかなと思います。

ENV 今6番としてなっているところ、少し抽出してまとめるという感じかですか。

事務局
(加藤園長) まとめるというよりは、たとえばかっこ2と6の2の教育については同じなわけだから、どちらかで整理するとか。別立てにしないで取り込めるところは取り込むというようなことはできるかなと思います。

福津氏 せっかく理念できましたよって開いたら定款的な文章が並んでいると、今までの話し合いのやる気度が伝わらないと思うのです。もったいないなと思いました。

ENV ちょっとそれだと事務的過ぎるというか、ドライな感じになっています。

福津氏 そうです、あまり変わってないなって感じ。

ENV 読んだところから意欲が伝わるような感じですかね。

佐藤氏 淡々としていて、「おっしゃる通りです」という感じで、そうですね、っていう感じです。それで終わってしまうとドラマがない。ドラマチックな感じのものにしたい。

たとえば市民に伝えたいのであれば、どっちつかずな言い方ではなく、あなたに話したいんです、っていうものをつくって、お役所用は別につくっていただきたいという気がします。そちらは専門家にきっちりつくっていただいて、ここはなんかもっとパンフレットみたいなもので、使い道を切り替えて作って読みやすくする。そうしちゃっていいものかどうかわかんないですけど。

金子氏 ちょっといいですか。僕は大学に移る前は道庁にいて計画部門にいました。そのときによく言われたのが、こういう構想ってなんのために作るかっていうと、人・物・金を取るための手段として作る。だからこれ書いたことでどれだけお金持ってこられるか、人がつけられるか、物が建てられるかっていう、それをいつも頭のなかに入れながら書きなさいっていついわれて、それでずっと書いていてました。だからそういう感じで見ると、非常に細かいところは細かいし、ばふらっとしたところは何いいたいのかわからないような書きっぷりになっている。だからこれは絶対やろうって、たとえば 10 個ぐらいあげる。これはやりましょう、たとえば条例をつくります、とか、それからたとえば世界の絶滅危惧種の研究拠点を整備しますとか、環境教育、札幌市民の、子どもたちのための環境教育のセンターになりますとか、絶対やりたいことを固める。このあと基本計画をつくるので、その前段になるような部分をここでしっかりと書いたほうがいい。これは動物園の方にとってはかなり厳しい話だとは思いますが、この構想を使って戦わなくちゃいけないので必要なことです。構想っていうのはそういうもので、動物園の名前で構想をばんと出す。行政的なやり方では構想をつくて、それに条例をつくるって書いてあるんだから条例をつくらなきゃいけないとか、ここは拠点になるんだから拠点のための予算要求をしますとか、そういうアクションを起こすときの根拠に構想はなるわけです。だから闘うための武器に構想はなるわけです。今の構想だと武器になりません。お金を取ってこようという戦略が見えない。やっぱりそういうような感覚でまとめないといけないと思います。

ENV むしろドライな感じの定款的な感じじゃなくって、もっと目指すものをはっき

りという感じですね。

金子氏 パンフレットのようなものを作ることも必要ですし、市民の人たちに円山動物園というのをきちっと理解してもらうことが重要なことなので、定款みたいなわかりやすいものが必要なのかも知れないけども、その前にこういうものをつくりますという、たとえば小学校や中学校の子どもたちに円山動物園とか生物多様性の役割を知ってもらうような取り組みを行います、というような、1つ前段階のものを書いていく。構想の作成はそういうことでいいんじゃないかなっていう気がするんです。それを受けて、パンフレットをつくりましょうとか、次のステップへ移っていけるんだろうなと思います。

ENV いくつか使い道といたしますか、今、つくっているものの利用を考えてのご意見が出ているかと思うんですよね。やっぱり1つには市民であったりとか、あるいは協力を求める相手だったりとか、連携していく人にぱっと見て伝わりやすいものという意味では、やっぱりおっしゃられたように、もう見てすぐに意欲が伝わるようなドラマチックな感じのもののほうがやっぱりアピール力は強いでしょうし、それと条例とかを見据えた少しドライな感じのものが必要となるのでしょうか。

金子氏 条例をつくりますというのを上のほうにだしたらいい。

事務局
(加藤園長) 整理の仕方で、今、金子先生がおっしゃったようなことは、いけると思うんですよね。だから6番の保全とか、教育とかレクリエーションとかいろいろ言っているわけだから、ここでもうちょっとはっきり言えばいい。

金子氏 ぎりぎりのところまで書き込むんですよ。園長が大変じゃないかと思うけど。

事務局
(加藤園長) でも書かないと勝負にならないですからね。

金子氏 ここはある意味第三者機関じゃないですか。だから市民動物園会議もそうだし、園の内部からこういった意見を出すのはかなり厳しいかもしれないですけど、外の人はずいぶん言って、夢物語を盛り込んで、あとは戦っていただくっていう形にしたらいいと思う。

事務局
(加藤園長) 条例の話は、動物園を恒久的にやっていきますっていうことを決める条例ではなくて、動物のためにちゃんとした飼育・展示、動物のために、市民のためにちゃんとした飼育・展示をするためにはこういうことを守っていきますっていう条例なわけですから、きっと前のほうっていうよりは、やっぱりさつき課長

が説明したように、最後のほうでこういうことを進めていくためにはこういうことも必要だ、というような整理をすることになるとは思います。

吉中氏 9 番のコンプライアンスのところではいろいろなガイドラインとかマニュアルがあって、それに沿ってやっていきますというのが書かれてあるところに、それをもっとしっかりしたものにするためには条例化も必要ですみたいな、そんなことを書くっていう手もあるかもしれません。

ENV 前回のこの検討部会でもいろいろご意見を出していただきましたけど、でき上がったもののイメージとして、現行の基本構想はかなり文章メインの感じのものですけれども、今回はたとえばもう少しパンフレットの的なというか、写真とかも入れ込んで、といった感じのイメージになりますか。

事務局
(加藤園長) まあもうちょっと読みやすいように。ページが増えて 1 ページのなかの文章が少ないっていうふうになってくるかもしれないですけど。

ENV そしたら場合によっては、ここの文章以外に、さっき吉中さんから提案が上がりましたコラムといいますか、トピックといいますか、四角のなかに少し説明を入れてみたり、ちょっと例を紹介してみたりというか、そういうのも組み合わせるって感じでしょうか。

事務局
(加藤園長) 見込みとしてはあるんじゃないでしょうか。

福井氏 この絵、イラストみたいな、視覚的に入るものとして、理念とかも含んで説明できて、円山動物園のあり方、方向性、その結果どうなるかということもわかるようにまとめられるといいのですが。たとえば、ゾウ、あるいはホッキョクグマ、その生息地と円山動物園の飼育個体をつないで、そこに保全とか教育とか研究が入ってくるような、そんなイメージのイラストがいいですね。

事務局
(加藤園長) イラスト、ばんと入れなきゃダメです。

福井氏 絵の力はすごいです。そういうのになるのが理想です。

ENV 項目がいろいろあるので、たとえば言葉もたぶん選ばないといけないかと思うんですね。図のつくり方によってはこういう雑ぱくとした保全とか教育とかいう言葉ではなくて、もうちょっと、伝えるとか、守るみたいな言葉にしながらこの構造を表せばいいのかなとは個人的には思います。ここにイラストを入れたりとかしながら、調査研究であるとか連携であるとかという言葉も、このまま単語で使わずに図として表現していくというやり方もあるか思います。そ

れ以外にたとえばこの全体としてやっぱりデザインも、今のよりはもっとカラフルにとか、写真やイラストも入れてとか、そういう感じのイメージで仕上げたいと思っています。

事務局
(加藤園長) 取りあえずは文章のつくりとして、リード文があって、ベタ打ちじゃなくなっていくわけだから、見た目は変わるでしょう。

佐藤氏 たぶんこの文章をまとめた方も、まだきっとそんなに固まってないんだろうなっていうのが、この図にもあったんじゃないかなっていう気がします。どう見てもわかりにくいし、連携って書いてあるけど先に誰もいない。これはないだろうなと思ったので。たぶんまだ途中っていうことなんだろうと思っています。それで今、話されたことのなかで一番大きいこと、理念がきちんとわかって、それに具体的にどうつながっていくのかっていうのが、もしわかりやすい絵で示していただければそれはとってもいいなって思いますね。

福津氏 さっき園長おっしゃったみたいに、真ん中にたとえばゾウがいて、それに世界の自然の絵があって、そこに教育とか保全とかそういうのが入っている。そんなイメージでしょうか。

佐藤氏 まずこの図がもうちょっと整理されてから絵がつくっていう形でしょうね、きっと。先に絵を書き始めたら訳わかんなくなりそうな気がしますけど。

ENV あとすみません。6番も細かい項目はさっきもお話しした通り、今取りあえずはどんどんリスト出しといいますか、内容出しという感じなので、これまた次回以降に、直接個別に細かいところのご意見いただいてということになるかどうかと思うんですけども、あげてるその項目を整理します。具体的には6の1、6の2というふうに保全の話を書いて、教育の話を書いて、レクリエーション、次に動物福祉について、調査研究について、連携について、それぞれくくってありますが、このくくり方であったり、配置についても、たとえば先ほどから動物福祉はもう全然別物だということなので、独立させるとか、もっと大きく分けるとかという書き分けというのも必要かと思っています。ここについてはいかがですか。たとえば中身の細かいところではなくて、6のなかの構成といいますか、内容のくくり方で。

吉中氏 今だと全く並列に並んでいるのでそれが少しわかるように、使命的な部分はこれとこれです。それを実施するために必要な取り組みはこうです。それらの前

提条件として動物福祉がありますといった感じに整理し直す。調査研究が一番大事ですねとか、階層を考えるといい。

金子氏 少しわかりやすくなる気がしました。

ENV 今も6つに分けて、その6つも並列でただ順番ついているだけですし、中身も挙げているだけですので、そこをもう少し階層関係がわかるような整理にするという感じですね。

福井氏 動物福祉は、動物の飼育健康管理と並列に必ずついて回る責任、責務ですから、それだけは独立した項目かと思います。円山動物園としては地球上の貴重な預かりものをどう扱うんだというポリシーを述べる場所があってもいいのかなと思います。6には動物福祉だったり、エンリッチメントに対しての評価ということも書いていましたし、そういったところを、一番に目指すという宣言をすればいいんじゃないかなと思います。あとちょっと抜けているかなと感じたことですが、動物園の動物は老齢の個体だったり、障害を持っている個体だったり、ハンデがある個体もいますし、個々の動物のライフステージごと、持っている個体の性質ごとに幸せに生きられるように配慮するっていうような視点は忘れてはならないのかなと思います。一般的な飼育をしたからといってその動物が絶対幸せになるとは限らないので、ちゃんと個体ごとにちゃんと見ていくよっていうことと、ちゃんと評価をしていくよということを整理する。ほんとに幸せになっているかどうか、やりっ放しじゃなくて振り返るということも重要です。そこには外部の意見を取り入れたりとか、より科学的に健康をクリエイティブしていくという決意表明をしたほうがいいのかと思います。漠然と、ちゃんと飼いますよ、というようなことは誰もが言っていますが、その結果、ちゃんと飼いますよって言っても事故が起こることがあるので、そういった動物の健康に関わる項目のところではもう少し踏み込んでいいのかなと思う。あともう1つ、痛みに対して適切な獣医療を施すということがありますが、たとえばその痛みに対しての捉え方で、ときにはきれいごとではすまされない、責任を持って命を断つという、安楽死というものもあります。たとえばいくら希少動物で人気の動物だからといって、それがもう治療のかわなく、もう痛みがあると考えれば、やっぱり自分たち責任の下、それはちゃんと命を預かるんですよという決意も、たぶんこんなこと言ってる動物園はないかもしれませんけ

ど、これからの時代のなかではそれを市民にも受け入れてもらうというのも大事なのかなと思います。

ENV ここは、私は専門ではないので、どういうふうを書くのがいいのかわからないですけど、終生飼育、あるいは安楽殺みたいなものも責任として考えるのかというところは、実はどう表現すべきか難しい。職員の方でもここに書き入れるべきかというような話は出ていたかと思うんですが、福井さんとしては責任の下に苦痛を減らすための、というようなところは理解を求める必要があるということですか。

福井氏 そうですね。科学的な視点に基づいて安楽殺というのは適切な獣医療ですから、それをむしろ市民に受け入れてもらうっていう専門家の視点っていうのも加えてもいいのかなと。もう生きる望みなく痛みを持ったまま、治療のかわなく、うんちやおしっこで汚れて、白いホッキョクグマが真っ黒になりながら床ずれを起こして、出血しながら死に絶えていくのを見るというのは非常に苦痛で、彼らに対しての尊厳もなくなりますので、それはやっぱり命を預かる者としては考え方として書いたほうがいい、方針を示してもいいのかなとは思っています。

小菅氏 福井さんの安楽死に対する考えですけれども、これは全く正しいです。正しいけど、現時点で日本の動物園・水族館がそのレベルで社会的な認知を受けているかっていったら、遠うとおもう。この問題は、かなり遠い先の話だと思うんですよね。だから僕は、各個別の事例ごとにきちんと伝えていく努力の必要性はあるとは思いますが、将来に向かってのところで、円山動物園が宣言してしまうというのは、どうなるかっていうのは実は僕も全然わからない。つい先日、動物園でキリンを安楽死させたことがあったが、ヨーロッパですらあんな議論になっている。あそこはきちんと、堂々と公開して討論をテレビ中継したでしょ。確かに実施されてはいるんだけど、あの西欧社会だから受け入れられたと思うのです。けど日本では、やはりその起立不能に陥ったゾウを最後まで治療するとか、障がいを持って生まれた個体をどうしていくかっていうことについては、まだまだ方向性が固まってない。固まるどころか日本では方向性はまったく逆だと思う。あと、科学的な療法のなかで、絶対にこれは回復できないし、ただ苦しむだけという状況を、客観的に判断するための事例としての積み重ねること、それと安楽死を選択した判断材料をいかに積み重ねていく

かというのが、大事なことだと思う。だけど、現時点で、今回策定している方針のなかでそれを書き込んでしまうっていうのはね、そのことだけで、要らぬハレーションを受けてしまうような気がしますね。

福井氏 表現系としてそういうことも、含みつつ、たとえば痛みに対して、あるいはそれに適切に対処すると、その動物福祉に配慮した獣医療を施していきますと、というなかに含まれていきますね。

小菅氏 だからそういう表現で、このなかで読み取れるようにして、いっぽうでは安楽死を迎える基準案みたいなのをきちっとつくってね、そして個別にきちんと、整理したうえで、やるときにはやったって公表しないとだめだけど、そういうふうにして事例を積み重ねてかなきゃだめだと思う。だから今、福井さんが言ったように、それがこの文言で読み取れるような表現であれば載せておくのはいいが、それでなければ止めておくべきだと思う。

福井氏 個体の尊厳に配慮した健康管理とか。

小菅氏 そういう表現ならいい。

ENV 個体ごとのとか、ですよ。この先、最終的にはこういう議論が、お二人とも専門家ですが、どこまで表現するのか、しないのかというようなデリケートな話が、出てくるかとは思いますが。そのあたりの今後の進め方とか、最初にもお話がありましたように、市民ワークショップとか、アンケートとかで出てくるような意見をどう取り入れていくとか、あと職員の方の意見であったり、ここにいらっしゃる検討委員の方の意見であったり、どんな感じの進め方になるかというようなことをちょっと考えていけないかと思うんですが、休憩を一度挟み続けていきます。

—休憩—

ENV それでは再開したいと思います。まず、皆さんにご相談というか、お聞きしたいのが、この先取りあえず、いまあげている文章をもう少し整理をして、削ったりとか、もう少し表現をシンプルにという作業をする必要がある思っています。そこで、ここはもっとこういう表現にしたほうがいいんじゃないとか、さきほど、福井さんからありました通り、ここはもっとちゃんと書いといた

ほうがいいんじゃないかという、かなり具体的なご意見を早め早めにといいます、時間もあんまりありませんので、どんどんいただけるうちにいただいたほうがいいかと思いますが、そのあたりはどういうふうに進めるのが、いいでしょうか。直接、連絡をいただくとか可能ですか。

事務局
(加藤園長)
ENV

メールでやり取りするのが一番いい。
いいですか。そしたらそういうやり方でよろしいでしょうか。

福井氏

ワードの校閲を使って、誰が何を直したかわかるように。

ENV

そうですね。ただ今日のご意見を踏まえて、構成は大きく変える必要があるかと思います。その順番であるとか。そちらのほうは、まず、早急にやりたいと思います。そのなかで、きょう書いてあるちょっと具体的な文章のなかで、もう少しこういうのを盛り込んだほうがとか、ここは表現がおかしいとかというのがあれば、そのあとで言うだけでいいから、次回までに、内容としてもできるだけいいものにしてこうと思います。それから次ですが、次は、7番、8番あたりも文章が出てくるという感じで、よろしいでしょうか。

事務局
(加藤園長)
ENV

今、聞いていったほうがいいんじゃないですか。
このへんは、園長はどうあるべきか、職員はどうあるべきかといったようなことをここに書いていくという感じのイメージですか。

事務局
(加藤園長)

たとえば内部でもいろいろ議論になっているのは、これは、動物園なり、札幌市が出すものですね。そのなかで市民はどうあるべきかっていうことをほんとうに書いてもいいのか、書くべきなのか、書くとしたらどんなことかっていうことが、われわれのなかで議論になってるんですね。

ENV

その場合、たとえば主語が変わるということになりますよね。

事務局
(加藤園長)

というか、たとえば、こうあってほしい、なのか。イメージするとすれば、たとえば市民の皆さんには、円山動物園はただただ楽しむ場ではなくて、いろいろ学ぶ場として活用してほしい、みたいことになるのか、どうか。

吉中氏

1つは前段の6番のところに実はその動物園職員のあいだで、意見の交換を進めていきます、みたいなのが書いてあったりとか、市民の、地元の市民団体とも協同してなんとか協力していきますみたいながあるので、そういうあたりをうまく使えばいいですね。抽出というか、だぶってもいいと思いますが、そういうところで市民に期待されてる役割とか、動物園職員としてその果たすべ

き役割みたいなのが、わりといろいろ書かれてあるのがあるので、それがベースになってもいいのかなという気がしました。

ENV その場合はたとえばこの（１）の円山動物園職員の場合は、円山動物園の職員は、ということで、主語がそんなには変わらないのですね。円山動物園はこういうのを目指しますとか、取り組みますという感じなので、１番あたりは職員としてという表現で変わらないと思うんですが、そのあとについては市民は、企業は、というような主語にして表現し書いていくのかということですよ。

事務局
(加藤園長) それが適切なかどうか。

ENV それは条例とか、そういうのであれば、そういう表現をされているという感じのイメージでしょうか。

吉中氏 そこはあんまり問題にならないような気がするんですけど。市民にはこういうことが期待されています、というような書きぶりで始めて書いていけばいい。

ENV どうでしょうか？ここは、次回にここもたたき案を出してくることでよろしいですか。

小菅氏 円山動物園職員って書いてますね、７番と１番にね。これは動物園の職員はこういうことをするということを書くという意味の項目なんですか。

事務局
(加藤園長) こうあるべきだのほうがいいんじゃないかなと思ってます。

小菅氏 ここに動物園の組織体制みたいなものが書かれないんですか。

事務局
(神課長) ここでは、職員となっていますけど、動物園として、どうあるべきか、それは体制だったりとか、そういったことも実はほんとは項目として入れないといけませんと考えています。加えて職員は、ということで、ちょっと足りてませんけれどもそういうイメージでやっています。場合によっては札幌市というのを書き込むかどうかも検討しています。札幌市としてこうあるべき、動物園としてこうあるべき、職員はこうあるべきというような、３つの段階で考えたいと思っています。

小菅氏 動物園、園長、職員はどうあるべきと書いてあるわけだから、園長とか職員と分けてあるっていうことは、組織体制きちんとここで描いておくっていうのもいいですよ。

事務局
(加藤園長) 札幌市としてどうあるべきか、何をするかっていうことも書く必要はあると思います。

ENV 体制の話であるとか、それこそ運営ということがここに書かれてくるということですね。

事務局 (神課長) 職員ではどうしようもない部分ですよ、そういう部分は。市なり園として、大きな動きのなかで決める。整理しないといけない部分は分けて整理する。

ENV というのがここに書かれてきて、あと 8 番にコレクションプランがあって 9 番がコンプライアンス、こういう感じの流れですね。

そしたらちょっとあらためてここまでの全体像をちょっと見ていただいて、一応、もう 1 回、さっきの大タイトルっていうんですか、もう 1 回、ここで決める必要はないのかもしれませんが、やっぱり経営方針なのか、基本理念的な感じなのか、検討したいと思います。皆さんこれまでの説明、話を聞かれていかがですか。

事務局 (加藤園長) 基本方針がいいと思う。

ENV 基本方針。

事務局 (加藤園長) 全体を包み込む意味で。面白くないけど、まずは。

ENV 円山動物園基本方針ですね。

事務局 (加藤園長) 円山動物園をつくるかどうかはありますが、基本方針があって、なんとかかんとがつく。「円山動物園が切り開く未来」とかですね。」

ENV キャッチフレーズ的なところがタイトルとしてつく。

事務局 小さいキャッチフレーズで。

ENV 四角のなかに入るという感じでしょうかね。それでほかに何かご意見、今、決まってしまうわけでもなさそうですけど、なんかイメージというかご意見はありますか。

福津氏 自然と共生する社会をつくるっていうような。

佐藤氏 基本方針のタイトルのことですか。

福津氏 そうです。

事務局 (加藤園長) もうちょっと短く。

佐藤氏 この円山動物園の進める道の気持ちを生かしたら、円山動物園の目指すものとか。

吉中氏 なんかもう少し具体的に書いちゃったほうがいいかなあっていう気がするんですよ。

ENV このあたりどうですかね、きょうの最初のほうの議論でも、ただ理念がもっと固まってきて、中身のほうが先にあって、そこで考えたらいいと。そういう意見も出てましたけども、この流れはこのあとどういうふうに予定されてましたか。ここのキャッチフレーズ、この下のキャッチフレーズの決め方は。このあと職員のほうで絞られて1つになっていくという感じの流れですか。

事務局 (神課長) そうは思ってたけども、キャッチフレーズですね。ただ、メインになるのはタイトルなので、まずはタイトルを決めないといけない。キャッチフレーズはその後と思っています。

ENV 重要けども、先に理念とかのほうを決めてから。

事務局 (加藤園長) まずはそれですね。

吉中氏 思いつきみたいで申し訳なんですけど、キャッチフレーズは、あとでもいいんじゃないですかね。これが出てパブコメかけてやっていくなかで、こういう中身で基本方針なり、基本理念なりがまとまります。そこで何がいいですか、みたいなことを問いかける。

ENV まずはこの中身というか、理念のほうをしっかりとしておく。

吉中氏 理念なりを、明確に打ち出せて、それを市民の方にも見てもらって、理解されやすいものになったとすれば、なんかいいキャッチフレーズはそれから出てくるのではないかと思います。

ENV 今後パブコメであったり、市民動物園会議のほうにもかかっていって、また、もう少しいろいろな意見が出ていくので、そこまで進めてから、そこから出てくるようなキャッチフレーズをそのあたりで考えるというような、そういう感じでしょうか。

事務局 (加藤園長) そこでプロが出してくれれば一番いいんですけどね。

福津氏 フィールドミュージアムという言葉はいいですね。

ENV ではこの議論は、きょうはこういう提案ということによろしいでしょうか。

事務局 (加藤園長) タイトルですね。パイオニア的な感じがいいですね。

ENV だけど、タイトルは決めないとだめですよ。タイトルはさすがに今年度内に出す。

事務局 (加藤園長) 案として出すので決めないと。それぞれ思いついたものメールでいただければ。

ENV ではほかにきょうもう少し、議論しておきたい、あるいはこれはもう少し念を

押して言っておきたいというようなことはありますか。

金子氏 やっぱり図ですね。それと1枚もので、この構造全体が説明できるようなもの
福津氏 最近の円山動物園のニュースで、AIを使ってサル山のサルの顔が全部わかったら
というニュースを見ました。すごいハイテクで、わたしの回りでは絶対無理だよって
いったのにできるようになったって、すごい話題になったんですよ。周りのIT屋
さんたちが、絶対無理っていったんですけど、すごいねっという評価を受けて。IT
屋さんはIT技術がすごいすごいとってましたけど、園長のコメントが新聞にあっ
て、1頭ずつ顔認識できるから、今度1頭ずつの福祉的なケアができるみたいな
内容でした。AIかITとか駆使して、ほんとにその個々の福祉を上げてるって
いうようなところも、どこか入れたらいいんじゃないかなと思いました。

ENV それはたとえば最新の技術を導入してみたいなことですか。

福津氏 そうです。ただ、ITだっていうんじゃなくて、動物の健康状態とか、精神
面がわかって、福祉が向上するじゃないかみたいなことで。

事務局 おもしろいですよね、あれは。

(加藤園長)

福津氏 おもしろいですねえ。

事務局 基本は人間がやるんですけど、その足らざる部分を補うために技術を使うわけ
(加藤園長) です。チンパンジーの顔認証をやって、非常におもしろかったのが、われわれ
が間違う答えと、AIが間違う答えは非常に似通っています。じっと見ればわれわれ
もわかるんだけど、後ろ姿とかで、ときどき間違うときがあるじゃないですか。
それと同じ間違いをAIもしてる。

金子氏 先端技術の活用では、たとえばチンパンジーとかニホンザルとか種によっ
てくるのではなく、チンパンジーの〇〇君というレベルで、その個体ごとの管理
ができるようになる可能性があり、そうしなくちゃいけない。酪農学園大学で
は牛とかの個体管理をしていますけど、牛では1個体、1個体全部、ニーズも違
うし、病気にかかるのも当然違うから、個体管理っていうのがすごく重要にな
ってきていますね。といつつ、一方では絶滅危惧種の問題とか、地球の温暖化
とか、全体的なレベルの問題解決も重要になってきていて、個体のレベルから、
地球レベルまで、扱う課題の範囲が広がってきてるんですね。そういう
ようなことを少し盛り込んでいただければと思いました。

ENV 今日いろいろ意見が出てきて、どうまとめられるのかはまだはっきりとはしていませんが。ほかに何かまだ言い足りないことはありませんか。

事務局
(加藤園長) 個人的にはなんとなくポスト基本構想の中身の整理はついたかなと思っていません。

ENV そしたら、長い時間ありがとうございました。委員長にお返ししたいと思いません。

吉中氏 ありがとうございました。

今後の進め方ですが、今回は 23 日、金曜日の午後。その次が 3 月 12 日、月曜日です。次回と 3 月のあいだ、ちょっと時間がありますけど、次の 23 日までには時間があまりないです。今日いろいろなご意見で、結構ドラステックな変化、変更があると思いますが、それを全部、次回にまとめるのか。どう考えればいいですかね。その他アンケートとか、ワークショップの成果も触れていくってことですが。

ENV アンケートは簡単ですが 1 次集計のグラフとか、集計とかはご紹介できると思います。それで市民ワークショップのほうも最後に紙を配って、結構たくさんいろいろ書いていただいたので、それを今、文字に入力しているところですので、どんな意見が出されたかについては、お示しするのは可能だと思います。ですので、今回は子どもたちからの意見と、市民ワークショップのほうの意見とアンケートの 1 次集計の結果を見ていただくことになります。それからきょう、ご提案いただいたことを反映させて、基本方針の大きな枠組みは変えたいと思います。さらに 7 番 8 番が文章としても出でくるので、そこも見てご議論いただくということになります。

事務局
(加藤園長) 来園者アンケートの集計結果は先行してできあがるので、五月雨式で申し訳ないんですけども、提供できるデータ、資料は先に委員の皆さんにお送りするようにする。

ENV わかりました。ちょっとずつ、小出しにして見ていただくという感じでしょうか。委員の方々はよろしいでしょうか。

吉中氏 よろしいです。今日は基本方針というところでいろいろな意見出していただきましたが、さらにちょっと言い足りなかったこととか、気づかれたこととかあれば、今週中ぐらいには、長谷川さんのところにお伝えいただいて、来週、23

日までに全体の組み直しみたいなのをしていただくということでお願いします。
また、資料もできれば前日とかではなく、少し早めにもらえれば大変ありがたいと思います。

それでは次回はアンケートの結果も参考にしつつ、改訂版を議論するという感じになりますね。また、長谷川さんがとりまとめる中で、各委員の方に個別にここはどうでしたかというような質問がいくかもしれないと思いますが、できる範囲でご協力いただいて、次回にできるだけみんながこういうことだったよね、というような案が出てくるとありがたいなと思います。

ではきょう予定していたことは終わりです。何か他にありますか。

事務局
(高橋係長)

すいません、差し支えなければメールのやり取りで、前に送ったメールには皆さんのアドレスが入っておりますので、それを全員返信で返していただけるといっぺんに内容を共有できると思うので、そういうやり方していただければ助かります。

吉中氏

わかりました。じゃあそういうことにいたしましょう。どうも長時間に渡り、メッセージ、たいへん建設的な議論いただきましてありがとうございました。引き続き、もうちょっとがんばりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局
(加藤園長)

ありがとございます。よろしく申し上げます。

(了)